

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 18 日現在

機関番号：50104

研究種目：若手 B

研究期間：2008～2011

課題番号：20720087

研究課題名（和文） 人種的視点から見たアーネスト・ヘミングウェイ研究

研究課題名（英文） A Study of Ernest Hemingway's Works from the perspective of race and racial differences

研究代表者 本莊 忠大 (HONJO TADAHIRO)

旭川工業高等専門学校・一般人文科・准教授

研究者番号：50353222

研究分野：アメリカ文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：ヘミングウェイ、人種

1. 研究計画の概要

人種的な視点から、ヘミングウェイ作品の背景を成す歴史的資料を豊富に使用し、テキストにおいてうずまくさまざまな権力構造を明らかにし、作品の背後に隠された作者自身の無意識についても解明することにより、ヘミングウェイ作品の新歴史主義的なアプローチの可能性を探る。

2. 研究の進捗状況

(1) 平成 20 年度は、1930 年代の東アフリカにおいて見られた植民者・被植民者間で生成された階級、人種意識など、当時の支配的イデオロギーとアフリカ先住民の歴史的変遷を検証した。その上で「キリマンジャロの雪」、「フランシス・マカンバーの短い幸福な生涯」および『アフリカの緑の丘』において、白人登場人物と彼らの運転手、銃器係、皮剥ぎなどの従者として働くアフリカ先住民の間に植民地主義的な支配関係が不安定であること、それは当時のアフリカ先住民による抵抗運動が影響していることを明らかにした。続けて当時の歴史的背景を踏まえながら、アフリカ先住民の描かれ方および白人登場人物とアフリカ先住民との関係の描かれ方を分析することにより、当時のヘミングウェイ自身が抱いていたアフリカ先住民意識、およびヘミングウェイにとってのアフリカとは何かを究明した。

(2) 平成 21 年度は、前年度に明らかになったヘミングウェイ作品におけるアフリカ先住民の描かれ方を、遺作『キリマンジャロの麓で』における彼らの描かれ方と比較検証した。そして、1930 年代と 50 年代においてヘミングウェイのアフリカ先住民意識がどの

ように変遷しているかについて跡付けて、ヘミングウェイ文学全体におけるアフリカ先住民表象について検証した。

(3) 平成 22 年度は、禁酒法を扱った歴史的資料、研究成果から、禁酒法制定の背後に秘められた旧移民の意図がどのようなものであったかについて整理した。そして語り手がカトリック教徒として登場し、禁酒法を批判的に描いた作品において、旧移民の意図がどのように反映されているかについて分析した。そしてプロテスタントの家庭に生まれ育ち、カトリックに改宗したヘミングウェイの作品が、当時の歴史的コンテクストに収まりきらない独自性を持つものであることを明らかにした。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

(理由)

これまで 3 年間の研究成果については、学会発表や査読がある学会誌に掲載されてきているためである。また平成 22 年度の研究成果については、現在原稿を投稿、審査中であるため。

4. 今後の研究の推進方策

日本アメリカ文学会北海道支部を始め、日本アメリカ文学会、日本ヘミングウェイ協会などの学会に積極的に参加し、研究発表を行うのみならず情報収集に努めることで、最終年度の研究計画を遂行していきたい。特に日本アメリカ文学会北海道支部が定期的開催している研究談話会は、毎回議論が活発に行われている場であるので、積極的に参加し、研究発表を行い、そこでいただいた意見や評

価を基にしっかり論を練り直すなどの方法で、より良い研究成果へと結び付ける予定である。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

① Tadahiro Honjo. "Hemingway and Africa in the 1930s: Portrayals of Africans and Hemingway's Racial Consciousness." 『北海道アメリカ文学』 No. 26. 44-59. (2010)、査読有

② 本荘忠大、「アフリカ先住民表象に見るヘミングウェイのアフリカ」『ヘミングウェイ研究』 No. 9. 29-38. (2008)、査読有

〔学会発表〕(計2件)

① 本荘忠大、「ヘミングウェイと禁酒法—『日はまた昇る』および「ワイオミングのワイン」に見るヘミングウェイの人種意識」、日本アメリカ文学会北海道支部第145回研究談話会、2010年7月31日、札幌市立大学サテライト・キャンパス

② 本荘忠大、「ヘミングウェイと1930年代のアフリカ—創造されたアフリカ先住民に見るヘミングウェイの人種意識」、日本アメリカ文学会北海道支部第133回研究談話会、2008年11月29日、藤女子大学

〔図書〕(計2件)

① 島村法夫、今村楯夫 監修『ヘミングウェイ事典』、勉誠出版、(2011)、第1部、長編 *To Have and Have Not*、短編 “One Trip Across”、“The Tradesman's Return”、“Nobody Ever Dies” の内容紹介、解説・解釈と *Selected Letters* 13通、NANA Dispatch 3編の解説、および第2部キーワード「アフリカ系アメリカ人」、「アフリカ原住民」、「イタリア人」、「ユダヤ人」、「ジプシー」執筆を担当

② 本荘忠大、英宝社、『アメリカ文学における階級—格差社会の本質を問う』、(2009)、227-243.